

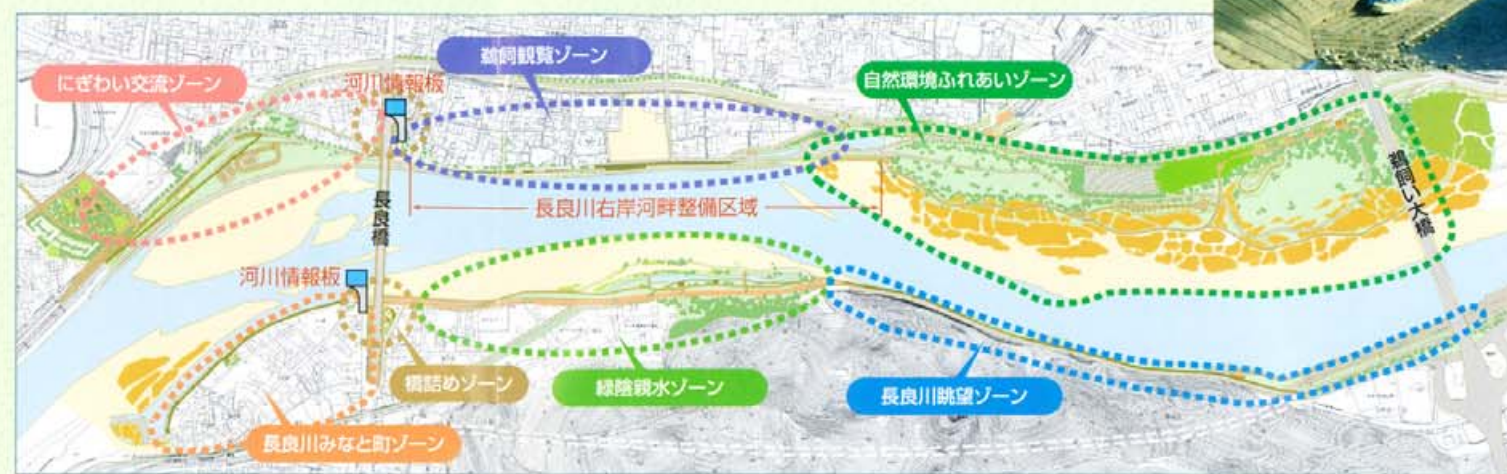
# まさに岐阜を堪能できる、憩いの場として生まれ変わりました

長良橋上流の長良川右岸は、正面に金華山・岐阜城を望み目の前を長良川の清流が流れ、上流には鶴飼い大橋が見える、岐阜でも有数の景勝地となっています。さらに、春から秋にかけては千三百有余年の伝統を誇る鶴飼が毎夜行われ、夏には間近で花火大会が見える絶好の場所となっています。

そのような場所でありながらも、これまでの河畔道路は多くの車が走り、歩道や護岸の小段も狭く、危険で歩きにくい場所となっていたため、ゆったりと良好な景観を楽しむことが難しくなっていました。今回の

長良川右岸河畔整備では、都市計画道路長良古津橋線の開通に合わせ、河畔道路は人への優しさを第一に、護岸は水害に対する安全性と歴史、自然への配慮を第一に、道と川とがひとつになった整備を進めてきました。

この整備により多くの方が、目の前の雄大な景観や自然を楽しみ、鶴飼や花火あるいはいろいろなイベントを通じて岐阜の歴史や文化にふれ、さらにはそこに集う人とのふれあいが育まれる場所へと生まれ変わることでしよう。



**▲整備前**

- 車が多く、安心して歩くことができなかったうえに、車のヘッドライトで鶴飼の幽玄さが失われていました。
- 水害に対する安全性の向上のため護岸の補強が必要でした。



**▲整備後**

- 自転車歩行者専用道路となり、河畔道路に面した方々の関係する車両を除き、一般車両の通行はできなくなります。
- 洪水に対して安全であるとともに親しみやすい護岸となります。

## 長良川プロムナード計画とは



「世界イベント村ぎふ」から長良川温泉旅館街に面する主要地方道岐阜美濃線を含む長良川右岸と玉井町周辺から鶴飼大橋までの左岸の河畔をゆったりと散策できるプロムナードを整備することを目的としています。

## 地域の人や観光客が集う憩いの場には、至る所に配慮が施してあります

長良川右岸河畔整備では、長良橋から岐阜グランドホテルの区間で、ゆったりとした快適な時間を過ごすためのさまざまな工夫がなされています。夏場や夜間を想定した配慮や、のんびりゆったりできる設備など、訪れる人を快適な気分にしてくれることでしよう。

**快適な空間をつくり出す植栽**

沿道沿いに植栽することで木陰をつくって周射しを減らし、夏場でも快適な空間をつくり出します。

**夏場も快適な舗装材**

歩道舗装は、保水性舗装といい、舗装内に水分を貯めるため、夏場は通常の舗装よりも表面温度が低くなる人にやさしい舗装です。

**ベンチになる構造**

歩道の所々に少し高くなっている部分があり、ベンチとして利用することができます。表面は護岸と一体となる仕上げとし、景観の統一を図っています。

**環境に配慮したソーラー照明**

街灯は、環境に配慮した太陽光によるソーラー式の照明が並んでいます。そして、鶴飼開催時にはその照明を消して暗闇を演出します。

**スツールとして利用できる足元照明**

足元照明は、スツールとしても利用できるデザインとなっています。川側を暗くし、鶴飼にも配慮しています。

**景観を楽しめる歩道**

デッキ材とブロックを組み合わせる景観に配慮しました。川側をデッキ材にし、原るのにちょうど良い高さでつくられた歩道は、足を投げ出して、ゆったりと目の前の景観を楽しむことができます。

**玉石護岸と緩やかな階段**

伝統的な玉石を基本とした護岸を施し、上部に丸みをつけることで川と歩道の一体感をつくり出しています。さらには、それに合わせて階段も緩やかにし、歩きやすいように配慮されています。

**車イスでも川辺を楽しんでいただくことができます。**

車イスの人でも、できるだけ川に近づいて楽しめるように、歩道に車イス用スペースを設けました。上流側には小段につながるスロープを設け、さらに川に近づくことができます。

**玉石を基調とした階段護岸**

川岸は、玉石を使った階段護岸とし、川に近いところで、多くの人に景観を楽しんでもらうことができます。

**デッキ材を張った小段**

小段の幅を広げ、デッキ材を張ることにより、歩きやすく、歩道と一体となった景観をつくり出しています。

**魚の住みやすい工法**

護岸の根本を守るための工法として、木工流床を用い、魚などの住みやすさにも配慮しています。

## 河川情報板の設置



伝統的なまち並みを残す鶴飼屋、川原町地区に、長良川の出水時の情報などをお知らせする河川情報板を設置しました。

